

「富山ニュービジネス協議会」第4回例会

平成 29 年 12 月 11 日（月）18:30～20:30

於：富山県民会館

講師：ラクスル株式会社 CEO 松本 恭攝 氏

参加者：167 名

「仕組みを変えれば、世界はもっと良くなる」

富山 NBC 第 4 回例会が開催されました。講師の松本氏は富山県射水市出身。2009 年にラクスル株式会社を創業し、クラウド型ネット印刷サービスで印刷業界に革新をもたらしました。また、近年ではシェアリングエコノミーサービス「ハコベル」を開始し、IT 化されていない市場の産業構造を変化させ、世の中に大きなインパクトを与えていくことを目指していらっしゃいます。

今回は、参加者の方々より事前に募集した質問に答えて頂きました。



◆起業しようと思ったきっかけ

前職のクリエイティビティのない仕事からの脱却を望んで、退職し仕事を探していた。その時にイノベーションができていない印刷業界の非効率を直せるのではないかと、考え会社設立に至った。



◆会社の成長期には、何を優先的に選択しましたか

①人材確保、採用に最も重きをおいていた。ダイレクトリクルーティングのみで、必ず社長面談を行っていた。経営は人づくり、組織づくりである。

②2年ごとに事務所移転を行った。会社として成熟したら内外から育てる。

◆新しいアイデアを出すために日頃行っているルーティーンや、発想力を高める方法

イノベーションは情報と情報の掛け合わせによって起きるので、情報を持っていない人はイノベーションは起こせない。ビジネスは何かと何かの掛け合わせで生まれるので常に情報に触れるようにしている。文字情報だけでなく五感をフル活用し情報の収集量を増やす。最先端でやっている人と話をする。

メタ認知、物事を構造化・一般化して考える。情報かけ合わせると面白いビジネスのアイデアができるのではないかといい発想。

◆事業を行う上での効果的な打ち手の見極めについて

大きな打ち手、小さな打ち手がある。小さな打ち手は、リスクを恐れずに挑戦し失敗しながら事業を伸ばす方法を早く見つけた方がよい。大きな打ち手は、早く諦めすぎないこと。長く事業を続けることが大事であるので、当初うまく行かなくても数年後に急成長することはよくあるので、時間をちゃんと取ること。

◆創業者の想い

会社を運営するにあたって、儲かる会社を作るだけでは、今の時代人はついて来ない。何の為に事業を行っているか、目指すべき方向性・大切にしている価値観を示す。「仕組みを変えれば、世界はもっと良くなる」というビジョン。どんなアプローチで実現するのか、ラクスルスタイルの行動規範を浸透させている。

◆これから社会に必要とされる人材

自分の頭で考える人、創造力のある人、人の意見に No と言える人。教育は根幹である。一人のリーダーがいると社会が変わる、街が変わる。リーダーをいかに育てるか。個性や主張を肯定していく教育がとても重要で必要である。



◆富山が発展していくためには

外から客観的に見ると誇れるものがたくさんある。東京でできないが富山でできることはたくさんある。地元で誇りを持つことが重要。ポジティブなアイデアでチャレンジして欲しい。富山は魅力的でポテンシャルはとて大きい。もっと良くなる。